

英語科としての表現・コミュニケーション力の育成

— Chit-chat Card と English Portfolio の実践を通して —

萩原 恵美 ・ 山口 茂朗 ・ 深澤 清治* ・ 柳瀬 陽介*

Development of Ability of Self-expression and Communication in Education of English

—Through the Practice of Chit-chat Card Activity and English Portfolio—

Emi HAGIHARA, Shigeo YAMAGUCHI, Seiji FUKAZAWA, and Yosuke YANASE

Abstract. This study is related to development of students' ability of self-expression and communication. In education of English, we need to raise students' "basic knowledge of English", "knowledge of practical usage", "knowledge of life and culture of Japan and other countries", "interest and motivation for English and culture of other countries". We should also make students consider understanding of others. We introduce our practical study of "Chit-chat Card Activity" and "English Portfolio". "Chit-chat Card Activity" enhances students' "basic knowledge of English" and makes students consider understanding of others. "English Portfolio" develops students' "basic knowledge of English", "knowledge of practical usage", and "knowledge of life and culture of Japan and other countries".

Key words: ability of self-expression and communication, basic knowledge of English, knowledge of practical usage, knowledge of life and culture of Japan and other countries, interest and motivation for English and culture of other countries

I. はじめに

本校では、2000年度に「明日を担う生徒を育てる学校教育の創造」を研究主題として設定し、めざすべき人間像を「自分を見失わずに異なる文化や異なる価値観を受容し、情報を活用しながら他者とのコミュニケーションを積極的に展開でき、よりよい意思決定を目指し行動しようとする人間像」と考え研究を続けている。また、本年度は「表現・コミュニケーション力の育成と評価」を副題に掲げ、研究を開始している。

学習指導要領外国語科の目標に「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。」とあるように、英語科としての目標と本校のめざすべき人間像とは重なる部分が多い。英語を学ぶことによって、「異なる文化や異なる価値観を受容しようとし」、英語を媒体として「他者との

*広島大学大学院教育学研究科

コミュニケーションを積極的に展開できる」生徒を育成することが英語科の重要な目標である。

そこで、本年度は本校の研究主題と照らし合わせながら、英語科としての表現・コミュニケーション力をどうとらえるのかを検討し、それをどのように育成していくのか実践しながら研究をすすめてきた。

Ⅱ. 研究意図

本校では、「表現・コミュニケーション力」を育成するための手だてとして、「内的表象を高めさせること」と「相手を意識させること」の2点に着目している。コミュニケーションの過程において送りに明確な内的表象が備わっていなければ相手に思いを伝えることは困難であり、各教科、領域における基礎的・基本的な力を生徒に定着させる指導を行うことが「内的表象を高めさせること」と直結すると考えている。

また、対象に応じた表現や伝達のためには「相手を意識させること」が重要であると考え、総合的な学習の時間や各教科・領域で様々な指導を行っている（黒瀬ほか 2004）。

そこで、本研究では、第一に、英語科としての「内的表象を高めさせること」と「相手を意識させること」が何であるのかを明確にしたい。

第二に、それらを育成するために具体的にどのような取り組みを行ってきたか述べていく。

第三に、その実践の中で、Chit-chat Cardを利用したコミュニケーション活動と English Portfolio の実践について取り上げ、それらと本校の研究主題との関わりを明確にしていく。

Chit-chat Cardを利用したコミュニケーション活動は、数年にわたり実践を重ねており、その成果と課題（萩原・胡子 2002）を受けて、昨年度は第3学年において Interview Lesson を行い（萩原・深澤・川原・坂元 2003）本年度は全学年に導入している。本研究では、特に本校での研究主題との関わりを明確にしなが、第一学年での実践を中心に報告していく。

また、English Portfolio は選択英語 B（第2, 3 学年対象）での実践である。「この一冊を持っていれば英語で自分のことを表現でき、海外で勉強する手続きを自分でできる」という冊子を作成させることで、「相手を意識させ」ながら、「内的表象を高めさせる」ことを目標としている。これについても、研究主題との関わりを明確にしていく。

このように、本研究では、英語科として「表現・コミュニケーション力」をどのように育成していくか考察し、今後の指導のあり方について考えていきたい。

Ⅲ. 英語科としての「内的表象を高めさせること」と「相手を意識させること」(図1)

1 「内的表象を高めさせること」

英語科では、「内的表象」として次の4点を考えている。

まず、第1に「基礎的・基本的な英語に関する知識」である。この場合の「基礎的・基本的な知識」とは、「英語の音声」、「文字及び符号」、「語、連語及び慣用表現」、「文法事項」のことである。それらを正しく理解し、適切に運用する力をつけることが大切であると考えられる。

第2に、「実際の使用場面についての知識」である。単に、単語や連語の意味を知っていても、それがどのような目的で、どのような場面で使用されるものかを知っていなければ、相手の意図も理解で

きず、また自分が言いたいことも正しく伝わらない。「基礎的・基本的な知識」と合わせて、実際の使用目的や場面を知り、適切に表現できることが大事である。

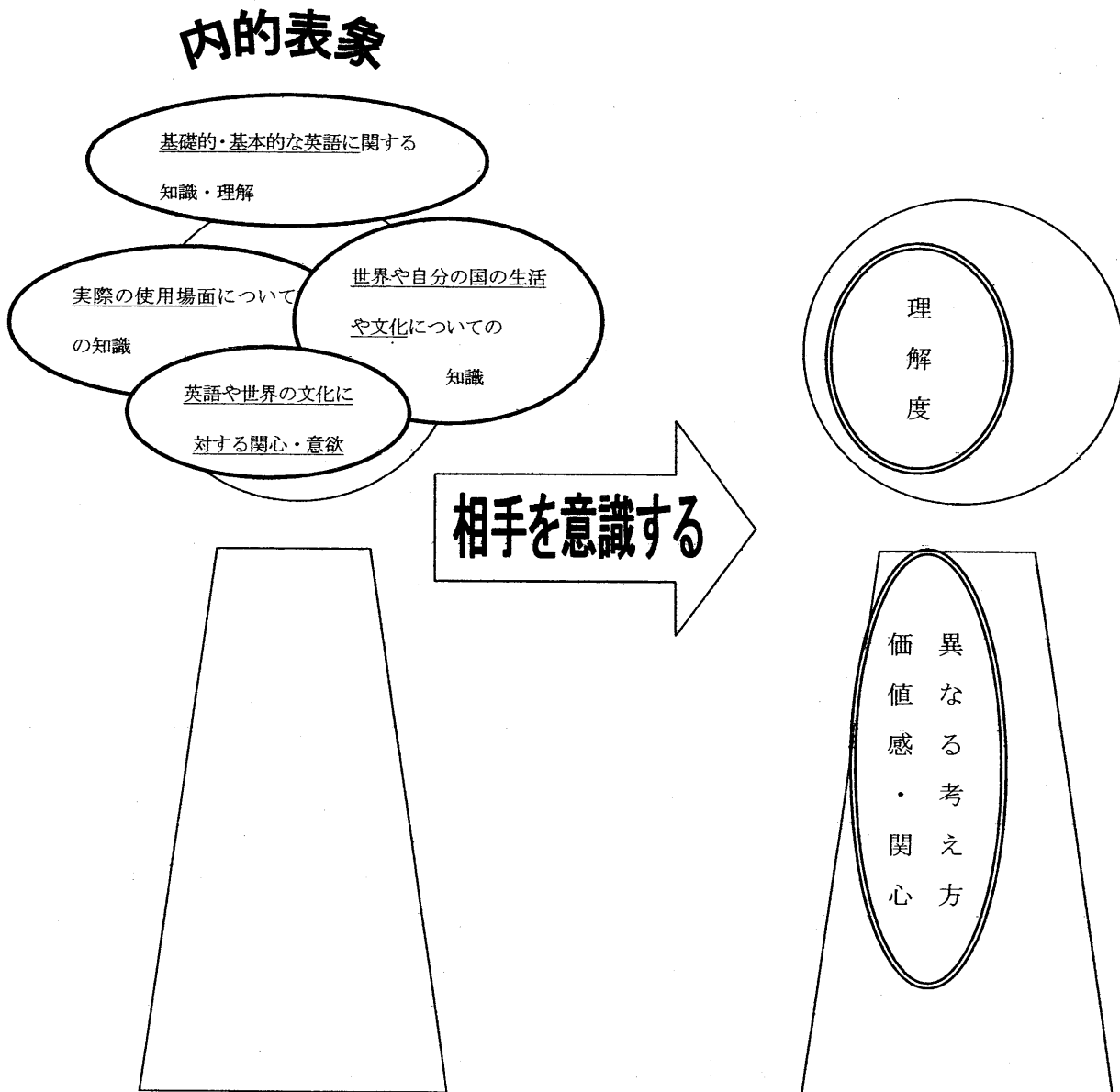


図1 英語科としての表現・コミュニケーション力

第3に、「世界や自分の国の生活や文化についての知識」である。英語を学ぶ過程で、世界や自分の国の生活や文化を知り、多様なものの見方や考え方を理解し、尊重する態度を育むことが大切である。今や、情報化社会と言われ、様々な形で、世界情勢や文化についての知識を得ることができる。しかし、英語を学ぶことで、実際に英語で書かれた情報に触れたり、英語圏の人々と話をしたりすることができ、より直接的に世界各国の文化や様々な考え方を知ることができる。また、その過程で、自分の国の生活や文化と比較したり、それについて他の国の人々に発信したりすることもできる。積極的に世界や自分

の国について知ることが、より充実した「表現・コミュニケーション力」につながっていくと考えられる。

第4に、「英語や世界の文化に対する関心・意欲」である。英語という言葉そのものに対する興味・関心を始め、英語を使って世界の文化を学ぶことを楽しむことが、英語による「表現・コミュニケーション力」を高めるために不可欠である。「英語を学びたい」「英語を使いたい」「英語を使っているいろいろな国の人と話したい」という気持ちこそが「表現・コミュニケーション力」の原動力になると思われる。

以上のような4つの「内的表象」を高めさせることが英語科として、「表現・コミュニケーション力」を育成するために大切であるとする。

2 「相手を意識させること」

「相手を意識させること」としては、次の2点が考えられる。

まず、一つは「相手を意識した内容や方法を選ばせる」ことである。英語を媒体として、コミュニケーションをする場合、その「相手」とは「異なる文化背景」のもとで、「異なる考え方や価値観」をもっている「相手」であることが多い。学校の授業では、「相手」は「同じ文化背景」の友達であることがほとんどであるが、それでも「異なる考え方や価値観」をもっている相手である。自分自身について表現するときであっても、相手に応じた内容や表現・伝達の仕方を常に考え、自分が表現したい・伝えたいことが相手に正しく、わかりやすく伝わるように適切な表現の工夫をしないといけない。また、コミュニケーションにおいては、相手の言うことをきいているということを示すことも大切である。アイコンタクトやうなずきなどの補助手段や、相手の話を発展させるような質問をしたり、自分自身の意見を付け加えたりして「コミュニケーションを持続させる努力」をすることが双方向の円滑なコミュニケーションにとって不可欠である。

もう一つは、「相手の理解度を意識させる」ことである。相手が理解しているかどうかを意識して、理解できていないようであれば、様々な communication strategy（補償方略）を使って相手に理解してもらおうよう努力をしなければならない。英語における表現・コミュニケーションでは、そのような communication strategy を知り、適切に運用することが必要である。

IV. 表現・コミュニケーション力を育成するための具体的な取り組み

1 「内的表象を高めさせる」ための具体的な取り組み

まず、「基礎的・基本的な英語に関する知識」を高めるために、各学年において次のような実践を行っている。

1 学年入門期においては、「音声と綴り字」との関係を理解させるために、フォニックス指導を行っている。アルファベットの名前だけではなく、一つ一つの音や、組み合わせたときの音声の仕組みを理解させるために、フォニックス指導は有効であると考えられる。

また、1, 2 学年においては「毎日ノート」という課題を与え、毎日ノートに1ページずつ英語を学習させることにより、基礎的・基本的な英語に関する知識の定着を目指している。

3 学年においては、授業時間に4種類の「Challenge Time」を設けている。「Listening Challenge」で

は、ALT 作のストーリーの Dictation, 海外の歌の Dictation や歌詞の並べ替え, その他 Listening 力をつけるための練習問題を行っている。「Reading Challenge」では、Jazz Chants により、英語の音声の特徴についての学習や、Call 教室を使った Reading 練習を行っている。「Writing Challenge」では、進級式の単語テストを行ったり、単元ごとの小テストを行ったりしている。

さらに、全学年において(3 学年においては「Speaking Challenge」で) Chit-chat Card を使用したコミュニケーション活動を主に Warm up として行い、既習の英語表現を定着させるための手だてとしている。

また、「実際の使用場面についての知識」を高めるためには、授業において実際の使用場面を意識した Oral Introduction を行うことで、和文英訳ではない英語表現を理解させることができる。さらに、Communicative Activity においても、実際の使用場面を設定し、会話の流れの中でコミュニケーションをとらせる活動を行っている。

「世界や自分の国の生活や文化についての知識」を高めるために、必修英語においては主として教科書の内容に沿って学習をさせており、今年度は英語資料集を全学年で購入させ、多様な知識の定着を図っている。また、選択 B 英語においては、海外で勉強するまでの手続きを自分で英語を使いながら行う Virtual Application, 日本独特の文化, 行事, 食べ物を英語を使って紹介する Presentation, 「この一冊を持っていれば英語で自分のことを表現でき、海外で勉強する手続きを自分でできる」という冊子を作成する Portfolio づくりを行った。Portfolio には、上記の Virtual Application, Presentation での学習内容もまとめさせた。姉妹校である Exploris Middle School 訪問の際持参する東雲中学校の紹介ビデオを、選択 C 英語で作成させた。また、英語準備室前のホワイトボードに英語圏の文化を季節に沿って紹介したり、英字新聞から切り抜いた記事に解説をつけて掲示したりして、「世界の生活や文化について」紹介した。

これらの「世界や自分の国の生活や文化についての知識」を高めるための取り組みは、「英語や世界の文化に対する関心・意欲」を高めるためにも有効である。また、ALT との Team Teaching や Interview Lesson を定期的に授業時間に組み入れ、生徒に実際に英語を使う場面をもたせることが、「もっと英語について知りたい」「もっと英語を使いたい」という気持ちを抱かせることにつながっている。

2 「相手を意識させる」ための具体的な取り組み

まず、「相手を意識した内容や方法を選ばせる」ためには、相手が英語を母国語とする ALT の場合とクラスの友達の場合とで内容や方法を考えさせる必要がある。例えば、ALT に自己紹介をする場合には、日本人の名前が聞き取りにくいことを考慮して、first name と family name をきちんと区切り、はっきりと発音することで、自分の名前をわかってもらうことができる。また、友達に対して Show and Tell を行う場合、単に自分が興味をもっていることを難しい表現を使って一方的に話すのではなく、絵や実物を見せると共にそれを使って示したり、友達にもわかる表現を使って話したりすることで、その物に対する自分の関心や思い入れを正しく伝えることができる。

また、「相手の理解度を意識させる」ためには、様々な communication strategy (補償方略) を具体的に指導する必要がある。以下は指導した具体的な例である。

ア. 相手が理解できていないとき

- ・繰り返す
- ・ゆっくり言う
- ・簡単な言葉で言う
- ・身振り手振りを使う など

イ. 自分が理解できないとき

- ・聞き返す

Pardon?

Speak more slowly, please.

Please say it again.

I didn't catch the beginning part/ the middle part/ the last part.

- ・わからないことを伝える

I don't know.

I don't understand.

- ・考える時間をつくる

Let's see. Let me think.

V. Chit-chat Card を使用した言語活動と「表現・コミュニケーション力」の育成

1 Chit-chat Card を使用した言語活動の概要

Chit-chat Card は生徒が作成する。一枚のカードに一問の疑問文とその答え方、及び関連のあるイラストをかく。カードに書く疑問文は、既習の英文の中から文のパターンを班ごとに指定し、それに応じて生徒一人一人が自分で英文を作成する。(例：1班は Do you ~? という文、など) この段階で、生徒は自分達にとって共通に興味・関心がある内容を考え、質問文を作成する。これが「相手を意識した内容を選ぶ」ことである。生徒は、教室中を歩き回って、指定の人数、あるいは指定の時間内にお互いにカードに書かれた質問をし、答えあう。その後、カードを交換して他の人と会話する。あるいは、班の中で、一人一人がカードに書かれた質問をし、その他の全員がその質問に対して答える場合もある。

2 活動の目的

- (1) 既習の英語表現を使った会話をするにより、「基礎的・基本的な英語に関する知識」の定着を図る。→「内的表象を高める」
- (2) カードの内容を生徒自身に考えさせることにより、相手を意識した言語活動をさせる。→「相手を意識させる」
- (3) お互いの理解度を意識させ、様々な communication strategy を使って会話を成立・持続させるための努力をさせる。→「相手の理解度を意識させる」

3 活動の実際

- (1) Look, look up and eye contact

カードに質問文が書いてあるため、ともすればカードを使用して会話をするというよりは、カードの質問文を読むという活動に陥りやすい。そこで、まずカードを見て (Look), 顔を上げ (Look up), 目を合わせて (Eye Contact) 会話をするよう練習させる。この Look and look up については、Reading の練習の際も意識させている。このように相手の表情を見ながら会話をする中で、相手の反応がわかり、「相手の理解度や興味・関心を考えて」話することができる。

(2) 自分や相手の理解度を意識した communication strategy

相手の表情や反応を見て、適切に communication strategy を用いてコミュニケーションを成立させる。communication strategy の詳しい内容については前述のとおりである。

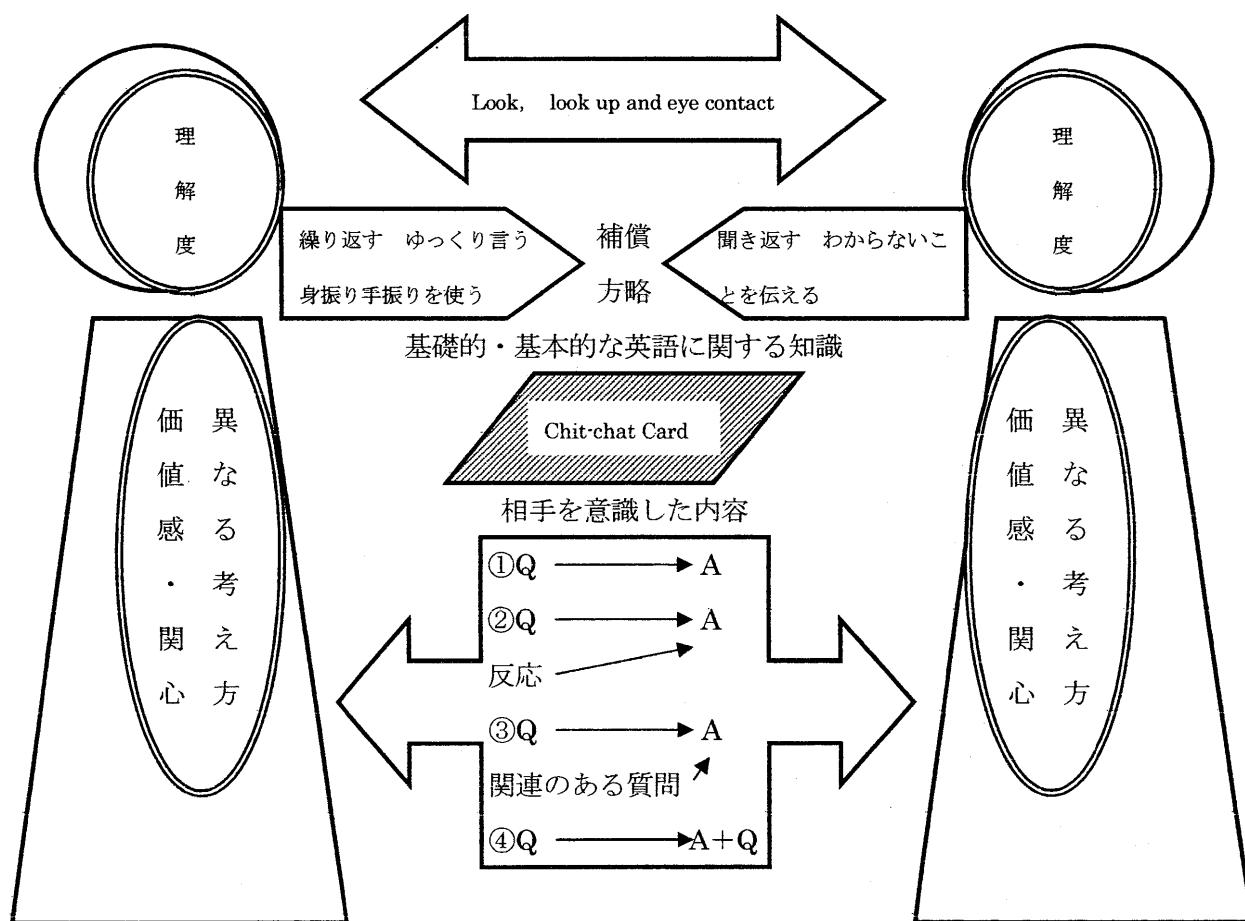


図2 Chit-chat Card を使用したコミュニケーション

(3) 双方向のコミュニケーション

最初はカードに書かれた質問をし、それに答えるという一問一答であるが (図2下部の①), 段階をふんで双方向のコミュニケーションとなるようにする。

まず、図2の下部の②にもあるように答えに対して何か反応を示すようにする。その反応の例は次のとおりである。

- ・そのまま相手の答えを言い直す
例：A: Do you like English?
B: Yes, I do.
A: Oh, you like English.
- ・答えの中心となる言葉を繰り返す。
例：A: Where do you live?
B: I live in Shinonome.
A: Oh, Shinonome!
- ・それに対して自分のことを言う。
例：A: Where do you live?
B: I live in Shinonome.
A: Oh, Me, too.

次に、相手が答えた後、さらに関連のある質問をするようにする。

- 例：A: Do you like tennis?
B: Yes, I do.
A: Who is your favorite tennis player?

また、カードの質問に答えた方が、たずねた方に質問を返すようにする。

- 例：A: What do you have for breakfast?
B: I have rice and miso soup. How about you?
A: I have bread and coffee.

このように、単なる一問一答で終わらず、会話を発展させる方法を学習させることで、相手の反応や答えに関心をもって受けとめさせ、「相手を意識した」コミュニケーションをする態度を養うことができると思われる。

4 成果と課題

Chit-chat Card を使用した言語活動の従来目的は、主に既習の英語表現を使った会話をするにより、「基礎的・基本的な英語に関する知識」の定着を図る、つまり「内的表象を高める」ことであった。しかし、相手の顔を見ないで質問するという「不自然な会話」であったり、一問一答で終わったりで、会話の発展が見られず、生徒の表現力を高めるところまで達していなかった。今回、「Look, look up and eye contact」を意識させることにより、カードとではなく、友達（相手）と会話をしているという意識をもたせることができた。また、「双方向のコミュニケーション」について段階を踏んで指導したことで、「相手の反応を見て」、会話としてお互い楽しむためにどのような発展のさせ方がよいのかを考えながら、活動を行うことができるようになったと思われる。しかし、その一方で、次に言う内容が難しいために、頭の中で考えてから発話する必要がある、自然な応答になっていないという課題がある。

今後はさらに練習を重ね、様々なパターンの会話の方法を学ぶことで、より自然に会話を持続させていくことができる力をつけさせるように指導していきたい。

VI. English Portfolio と「表現・コミュニケーション力」の育成

1 English Portfolio の概要

Portfolio とは、「紙挟み」という語源のものである。経済界では、カバンの中に入っている個々の書類を個別に扱うのではなく、カバン全体をひとつのものとして扱うという意味になり、後に株式など証券の銘柄の組み合わせなどのことを指すようになった。つまり、ばらばらの情報や知は価値を持たないが、それらを一元化し俯瞰するとそこから様々な「価値ある成果」や「重要な発見」や「成長プロセス」が見えてくるというものである。建築家、デザイナーなどの個性で仕事をする人は自分の「Portfolio」をもっている。(鈴木敏恵 2000)

選択 B 英語では、まず、Virtual Application で海外で勉強するまでの手続きを自分で行い、Presentation で日本独特の文化を英語で紹介し、これらの結果をまとめたものに自分を紹介する英文を加えた English Portfolio づくりを行った。

2 English Portfolio の目的

- (1) Virtual Application において、既習の英語表現を使ってメールを送らせることにより、「基礎的・基本的な英語に関する知識」の定着を図る。→「内的表象を高める」
- (2) Virtual Application を通して、実際の使用場面を意識させる。→「内的表象を高める」
- (3) Presentation において、日本での生活や文化について調べることにより、「自分の国の生活や文化についての知識」を高める。→「内的表象を高める」
- (4) Presentation において、日本での生活や文化について、相手にわかりやすいように工夫させることにより、相手を意識した表現について考えさせる。→「相手を意識させる」
- (5) Portfolio づくりを通して、自分自身のことをよりわかりやすく相手に知ってもらうために有効な表現内容や方法について考えさせる。→「相手を意識させる」

3 活動の実際

(1) Virtual Application

- ①英語圏の国々について世界地図、英語資料等を使って学習する。
- ②インターネットを使い、自分が英語を勉強する学校を選ぶ。
- ③その学校についてインターネットを使って調べ、実際にその学校の admission office に質問を書いたメールを英語で送る。
- ④その返信を読んで、実際に入学する日時、金額を調べる。
- ⑤パスポートの取り方、格安チケットの取り方、ユースホステルの予約の仕方を調べる。

(2) Presentation

- ①日本文化についてどのようなものがあるか考える。文化，服，食べ物など。
- ②グループで何を調べるか決める
- ③インターネット，本，旅券センター等にある資料を使ってどのようなものなのか調べる。
- ④調べた内容を英語を使ってまとめる。
- ⑤発表する。

(3) English Portfolio づくり (資料1)

「この一冊を持っていれば英語で自分のことを表現でき，海外で勉強する手続きを自分でできる。」という冊子を作成する。上記の Virtual Application, Presentation の内容をプリントアウトさせておき，このポートフォリオにまとめさせる。基本的には全部で4章からなり，以下のような内容になっている。

一章 Self Introduction

自己紹介をする。自分が今までに参加したクラブ活動，学校行事のことや，写真，家族のこと，将来の夢，自分の好きなスポーツ，自分の好きな音楽，育った街広島，絵や写真を好きなように書かせる。

二章 Virtual Application

自分が今までに送った e-mail や，調べた資料をまとめる。

三章 Presentation

各プロジェクトにおいて調べた資料，発表する内容をまとめる。自分なりの感想もまとめておく。

四章 For closing

この授業の感想や，今後の目標をかく。

4 成果と課題

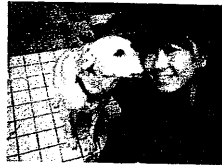
English portfolio 作りにおいて，生徒は非常に意欲的に取り組み，様々な写真や画像を交えながら，積極的に英文で書くことができた。内容も大変わかりやすく，外国の人に自分や日本について興味深く理解してもらうことができると思われる。しかし，残念ながら，実際にALTや外国の人とそれを使って英語で話す機会を与えることができなかった。本校と姉妹校である Exploris Middle School との交流事業のことをもっと意識して取り組む可能性があると思われる。実際に，English portfolio を使う経験をさせることで，より「相手を意識した」表現・コミュニケーションを高めることができると考えている。

VII. おわりに

英語科では，「実践的コミュニケーション能力の育成」が重要視されて久しい。しかし，ただ単に「上手に」英語を運用するだけではなく，「相手を意識したコミュニケーション能力」を育成することが大切である。そのためには，異なる文化や価値観について理解し，自分が表現・コミュニケーションをする「相手」にどのような表現方法・内容が適しているのかを考えなくてはならない。また，それと同時に英語を「正しく」表現の媒体として使うためにも「基礎的・基本的な知識・理解」も不可欠な要素である。

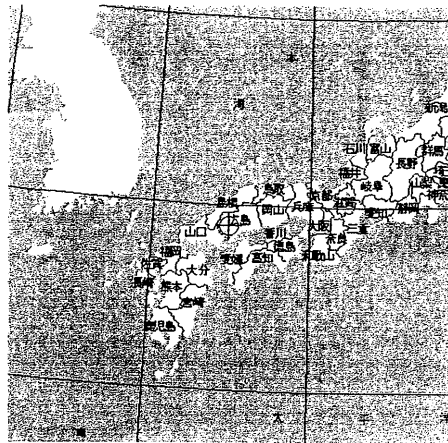
Self introduction

Name Yuka Miho
 My school Shinonome junior high school
 Grade second grade
 Birthday May 24, 1989
 Constellation Gemin
 Chinese holoscops Snake
 Blood type A
 My subject math, science, PE,
 English, Japanese, fine arts,
 social studies, music, domestic science,
 industrial art class
 My favorite subject English
 My favorite food eggplant, melon
 My dislike food tomato, raisin,
 My favorite candy chocolate
 My favorite movie appreciate
 My favorite dish Chinese foods
 My lesson piano, tennis, zyuku
 My sleep time 7hour
 International experiences
 Hongkong, Guam, New Zealand



The place in which I live

Hiroshima is in the west side in japan.
 It is in the Chugoku district.



I present my school life how I enjoy it.

I usually get up at 6:00 am. I have toast and coffee for breakfast, and then I leave for school at 7:00 am. I go to school by train and walking. There are a lot of people in the train every morning. I arrive at my school at 8:10 am. We always have six classes every day. Science class is very popular among my classmate. I like English and science classes. Specially, I like science teacher very much, while I don't like science very much. I dislike Japanese class rather than English, because Japanese is difficult. Fine art class is very interesting, so I like the class, too. However, I am not skillful in drawing picture. I'm a member of the tennis club. I play tennis after the class. Our school has only three tennis courts, so it is difficult for us to play more active. My racket is colored by sky blue. I like it so much. Unfortunately, I am not a good tennis player, so that I have to practice more. I do my best!!

Do you want to know my school?



This is a picture of my school. Although our school is very old and the outside of building appears dirty, the inside is colorful and beautiful. I like Shinonome junior high school very much! Our school has *Shinonome Kensyo*, *Sinonome Charter*. So we don't have school regulations.

↓ Shinonome Kensyo ↓

We express our belief in this Shinonome Charter and go ahead as partners who learn together at Shinonome.

1. Let's lead mentally and physically healthful life, respecting other people's and our own life and human rights.
2. Let's lead the life full of love, making much of human beings, nature, environment, and time.
3. Let's lead such a life as everybody can make progress together, by struggling for all things in earnest and reflecting them deeply.

☆☆February☆☆ February 14th is Valentine's Day. This is a unique and peculiar tradition in Japan: women give a present of chocolates to men to confess their love on this day. A candy company started this event in the late 1950s. Giri-choco, token gifts of chocolate, is also sometimes passed out to male friends or colleagues. I have never given chocolate to any boy until now. The chocolate with which it was filled with my feeling has been given to my father together with my mother and my elder sisters.

☆☆March☆☆ "Girl's Day" is celebrated on March 3rd. Beautiful hina dolls are displayed, with peach blossoms, Hishi-mochi and sweet sake is offered to prayer for the girl's happiness and healthy growth. My family usually eats Chirashizushi. I have Hina doll. I like them, because they are very gentle fates.



☆☆April☆☆ Many cherry trees bloom in April. In Japan, fiscal year is started from April 1st. It is the month which there is entrance ceremony into school and entrance into higher grade school, and new life starts for fresh persons. The first nine years of education, 6 years for elementary school and 3 years for junior high school, are compulsory. Of those graduating from junior high school, high school (3 years) enrollment is about 95% nationwide. The public schools including elementary, junior and senior high schools completely have five school days per week from 2002.

☆☆May☆☆ May 5th is "Boy's Day." Households with boys' display Boy's Day dolls that depict warriors or heroes, and fly carp streamers to express their hopes that the boys will advance in life like strong carps that swim upstream. Since my family has no boy, we have no carp streamer. This day has been changed to a national holiday to celebrate the growth of children regardless of gender.

☆☆June☆☆ Rainy season ordinary starts in the beginning of June. So we have much rain in June. We feel damp. I dislike June very much, because I can't play outside. It usually continues till the middle of July.

今後も、言語としての英語の基本的な力を大切にしながら、常に「相手を意識した」表現活動を行って
いくよう指導を続けていきたい。

引用・参考文献

オックスフォード, R, L. 穴戸通庸・伴紀子 (訳). 『言語学習ストラテジー』. 凡人社. 2000.

黒瀬ほか. 「明日を担う生徒を育てる学校教育の創造(3)」。広島大学附属東雲中学校研究紀要『中学教育』.
第35集. 2003.

鈴木敏恵. 『ポートフォリオで評価革命!』. 学事出版. 2000.

萩原恵美・胡子美由紀. 「実践的コミュニケーション能力を育てる指導」。広島大学附属東雲中学校研究紀
要『中学教育』. 第34集. 2002.

文部省. 『中学校学習指導要領. 解説 一外国語編一』. 1999.